
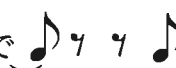



『秋空の下で』 寸評

- ・ 軽快でよく工夫されたメロディ
- ・ リズム動機  のあつかいもよくこなれている
- ・ 動きまわるベースへの和声感もしっかり把握されている
- ・ m.7-8緩急のつけかた 特にm.8 b.2の休符が効いている
- ・ m.8ベースの大きな跳躍がピアノらしくて○

完成度をさらに上げるために

- ・ 曲頭にダイナミック *mf* があったほうがよい
- ・ m.4 右手の四分休符は拍ウラに置かないので  とする
- ・ m.8 左手にもフェルマータ  をつけよう
- ・ アウフタクトのドをFに解釈したのはよいがそうすると m.1 b.1とおなじコードでやや単調
- ・ m.4 b.4もやはりFに解釈しているので、どちらもすこしベースをうごかしてみよう
- ・ m.7 b.1-3はB \flat に解釈したほうがひびきがすなお
- ・ タイトルを補完する発想標語がほしいところ (Ex. のびやかに)

m.=measure 小節番号のことです。

b.=beat 拍のことです。

とても進歩しましたね。

持麿 勉